



月イチHappy 2015.11月号

絵本『チャドとクラークのぼうけん島』
発売記念インタビュー第1弾

—映像制作スタジオのモンブラン・ピクチャーズから初の絵本ということですが、きっかけは？

もともと、テレビアニメシリーズとして考えた企画でしたが、絵本を読む子どもたちにもびつたりのストーリーだったので僕が原作者となって、文章は絵本作家の菜のやさんに、絵はイラストレーターの淵上コウジさんをお願いして、1年半がかりで構成・編集を行い製本化しました。

—絵本の随所に映画監督らしさが出ていますよね。竹清さんご自身は、どんな幼少期を過ごされたのですか？

生まれは久留米ですが、父親の仕事の都合で、福岡と転々となりました。中でも、5歳盛りに、佐世保の野山を走り回っています。川に何層にもなった岩があって、それを割ると中から魚や葉っぱの化石が出てくるんです。あとはひたすら石を研いで矢じりや弓矢を作っていました。きっとギャートルズの影響でしょう(笑)。その後、中学・高校の多感な時期は小倉で過ごし、映画と出会ったのもこのときです。中学2年生で初めてスター・ウォーズを観たときは、衝撃のあまり映画が終わってもしばらく席を立てませんでした。

—一番衝撃を受けたのは、どこですか？

特撮(SFX)の世界です。もともとプラモデルが好きだったから模型をこんな風に動かしたら映像ができる、という衝撃ですね。当時“シネフェックス”という主にハリウッド映画の特撮技法を特集している本があって、かなり高価でしたが毎月これだけはお小遣いで買っていました。今はCGで雨でも煙でも簡単に表現できるけど、特撮はとにかくアイデアと工夫の集積なんです。例えば爆発シーンの煙は、水面に落としたイン



合で、佐賀、佐世保、小倉、から10歳までの遊びたいしたのは印象深いです。

初めて観た スター・ウォーズは、 衝撃のあまり 席を立てませんでした。

クが広がる映像を逆さまにするとか、わくわくする情報が詳しく紹介されていて、毎号ボロボロになるまで読んでいました。

—でも、そんな技術を知ったら、自分でもやってみたくありませんか？

そこですよ。僕の運命を変えたのは、高校2年生のときの寿屋(スーパー)の閉店セールなんです。商品はもちろん、ポイントと交換できる景品までもが叩き売りされていて、炊飯器や扇風機に混ざってなんと、8mmカメラがあったんです。当時10数万円のカメラが3万円ですよ！初めて父親に「バイトして絶対返すから、3万円貸して」と頼み込み、自転車に乗って猛ダッシュで8mmカメラを手に入れました。そこからはもう勉強どころじゃない。ひたすら絵コンテを描いて、友だちに役者を頼んで、シネフェックスで覚えた技術を盛り込んで、大忙し(笑)。その自主制作映画、高校3年生の文化祭で発表したら拍手喝采で、先生たちも驚いていました。僕は普段目立つ学生じゃないのに、人を楽しませることに喜びを経験して、今思えば、これが原点だったかなと思います。

“多様性を許容するおおらかな世界”を描きたい

—そして、会社設立後の1作目が映画『放課後ミッドナイト』ですね。

もともと、CGアニメが出始めたころは「コンピュータで主人公の感情なんて描けない」と言われていたんです。その概念を打ち破ったのが『トイ・ストーリー』で、僕はこれを観たときに可能性が無限に広がるのを感じて鳥肌が立ちました。日本はまだセル画が主流で、CGアニメが興行的に大ヒットするのは2013年の『STAND BY ME ドラえもん』だから、ほんの数年前ですよ。僕が『放課後ミッドナイト』でわざわざモーシオンキャプチャーを使って表現したかったのは、バカバカしくも愛すべき世界。人間の素の部分もひっくり返して愛おしさを感じて欲しいと思って(笑)。だから海外でユニークさが評価されたのは、うれしかったですね。

—竹清ワールドを表現するときのこだわりは何ですか？

“多様性を許容するおおらかな世界”かな。誰かが良いと思うことも他の誰かにとって

は好ましくないこともある、問題も生まれるけど実はその多様性が世界の素晴らしさなんだ、というのがどうも好きみたい。だから今回の絵本も、単純なハッピーエンドよりも“相手の気持ちを大事にして我慢する”というほろ苦いテイストも大切にしているから、より感動的なラストになったと思います。

—最後に、竹清さんのHappyな時間を教えてください。

モノづくりしてるときは無条件にHappyですよ。モンブランでは10年間で3本、世界に通用するCG映画を作ると宣言しています。絵本の映像化をはじめ、これまで温めてきた企画がいくつもあるので、一つずつ形にしていきたい。“モンブラン”って名前には、真っ白なとびきり高い山をチームで登るといった意味が込められているんです。CGアニメが出てきてまだたったの20年でしょう？限りない可能性に満ちあふれたこのジャンルで、これからも福岡から面白い映画をどんどん発信していきたいですね！



Profile
モンブラン・ピクチャーズ株式会社
アニメーション映画監督/竹清 仁

1967年福岡県生まれ。九州芸術工科大学(現九州大学)卒業後、東映、神戸芸術工科大学勤務、KOO-KIの共同設立を経て、2012年モンブラン・ピクチャーズ株式会社を設立。映画「放課後ミッドナイト」は世界7か国で劇場公開される。マイヒーローは、ジョージ・ルーカス、スティーブン・スピルバーグ、ウォルト・ディズニー。
www.mtblanc.jp

